

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	渡辺 章
主な担当科目	ライブビジネスと社会,音楽芸術運営特別演習 ①,音楽芸術環境研究Ⅰ,企画制作演習ⅡⅢ,芸術運営演習A,芸術運営論Ⅰ
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	教員就任時の中期教育目標として、「音楽アーティスト／音楽プロデューサーを起業家として捉え、その成功を新規事業成功のメソッドに沿って再現可能なフレームワークの確立と伝達」を掲げました。2024年度の授業では、学生が主体的に目標設定や市場分析、セルフプロデュースを行えるよう、マーケティングやビジネスフレームワークの実践的知識を提供しました。また、公演制作やソーシャルメディアマーケティングのシミュレーション演習を通じて、実践力を強化する機会を強化しました。学生の自立と成長を支える教育に尽力し、どの業種・業界に進んでもノウハウを転用できるよう「再現性」に重きを置いた指導を心がけました。
2024年の教育に関する自己評価	授業を通じて学生は「プレゼン力」と「チームマネジメント」を身につける成果が見られました。一方、SNS活用(顧客属性の理解、アカウント運用、アルゴリズム攻略、ファネル設計)は不十分で、2025年も強化が必要です。計画管理やモチベーション維持に苦戦する学生も多く、個別支援や伝え方の工夫が課題です。今後はメンタルサポートや進捗管理ツールの導入を検討し、学内にとどまらず映像・SNS・公開公演などのアウトリーチを通じて成果を社会に共有し、学生の実践力と大学の存在感を高めていきます。
2024年のFD活動に関する自己評価	2024年は、担当しているアートマネジメントコースとジャズ／ポップ&ロックミュージックコースのFDや会議スケジュールがかぶることが多く、全てのFDに対面参加できませんでした。一方で、学外の経営者コミュニティで得た知見を授業改善に活用しました。今後は学内外の活動をより効果的に結びつけ、教育の質を高めていきたいと考えています。
授業改善のために取り入れた研修内容	「企画製作演習II」の授業で、学生が公演制作の進捗を報告する「週次会議」では、経営コンサルティング業界で広く使われている「週次報告書」の雛形を導入し、前週に立てた目標の振り返りと評価とおおよび翌週までの目標設定がのPDCAをまわしやすくするノウハウを取り入れしました。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3679 教員名:渡辺章

【ライブビジネスと社会】

教員名:渡辺 章、椎葉 克宏、中尾 友彰、森川 卓夫

1)アンケート結果に対する所見

「ライブビジネスと社会」の総合満足度(Q10)は「そう思う」71.9%、「少し思う」22.5%と、94.4%の学生から肯定的評価を得ており、一定の成果を上げたと考えられる。全項目において、大学平均を上回るか同等の評価が得られており、とりわけ「Q5. 興味や関心を持って出席している」(94.4%)や「Q8. 教育到達目標を達成できた」(87.6%)、「Q3. 授業が所定回数・時間通りに実施された」(98.9%)では高い数値が示されている点も評価できる。一方で「Q7. 授業外の学修時間」は平均 45 分と、全学平均とほぼ同水準ではあるが、本授業の性質上、自主的な復習や資料活用の余地があることから、より深い学びにつながる工夫の余地があると感じている。

2) 要望への対応・改善方策

自由記述欄では概ね肯定的な声が多く、「毎回大変貴重な話を聞いた」「もう一年履修したい」という声も見られた。一方で、以下のような建設的な意見も散見された。

- ・ 授業資料(スライド)の配布を求める声
- ・ 授業内での学生参加型の話し方を求める意見
- ・ レポートの締め切りや配布方法に関する課題意識

これらの要望を踏まえ、今後は以下のような対応を検討する：

- ・ プレゼン資料の一部を事後配布できるよう準備し、復習に活用できる環境を整える。
- ・ 講義冒頭や途中で「今日の問いかけ」を設け、学生が内省・対話できるアウトプットの時間を導入する。
- ・ レポートの提出方式を見直し、授業内での作業時間に加え、締め切りまでに余裕を持たせる工夫を行う。

3) 今後の課題

本授業では、実際に業界で活躍しているゲスト講師による講義を通じて、音楽ライブビジネスの最前線に触れる機会を提供している。今後はその学びを、より学生のキャリア形成やアウトプット(レポート・プレゼンテーション)に結びつけられるように設計を強化したい。現状は対面参加型の座学(インプット)中心であるが、将来的には多様な学びのスタイルにも柔軟に対応し、学生の主体的な関与を促す方向に持っていきたい。ゲスト講師ありきの授業進行であるため、慎重な検討や設計が求められる。授業内容の振り返りを FORMS で実施している現状に加え、Microsoft Teams 等での感想共有やディスカッションを通じて、学修の定着と仲間との相互理解を深める仕掛けを強化したい。また、ACPC(一般社団法人コンサートプロモーターズ協会)の寄付講座である当授業の持続性を高めるため、ACPC からのフィードバックや要望をあらためて丁寧に取材し、相互にベネフィットのある形での授業内容・運営方針の再検討も行なっていく必要がある。

以 上